

特集 コロナ禍に立ち向かう

～京都大学の取り組み～

昨年来、新型コロナウイルスのパンデミックのため、人々の社会活動が大きく制約されるという異常な事態が続きました。本学学生においても、キャンパスの中へ自由に足を踏み入れることもままならず、大半の授業をオンラインで受けざるを得ないという状態を強いられてきました。学生と教員の努力によって、新しい授業スタイルの可能性が開かれた反面、大学生活において最も重要な、学生と教員が同じ時間と空間を共有することによって交流し刺激し合う機会が失われていることは否めません。そのようなコロナ禍の中で、本学では直接的な予防対策に加えて、学生生活や教育研究活動の充実のためのさまざまな取り組みを行ってきました。

本特集では、その一部をピックアップしてご紹介します。

オンライン授業／ハイブリッド型授業支援サイト 「Teaching Online @京大」



CLICK!

「オンラインでもできること、オンラインだからできること」をキーワードに、オンライン授業やハイブリッド型授業に関する情報を整理、紹介しています。

主なメニュー



オンライン授業ってどんなもの？



ハイブリッド型授業とは



学習をどう評価するか



学内講習会



コミュニケーションをどう取るか



学生に何を伝えるか

(本サイトに関するご質問などは、サイトを運用する高等教育研究開発推進センターまで)

学内講習会



CLICK!

「コロナ危機の中でも学び・教え続ける」ために、高等教育研究開発推進センターでは情報環境機構と連携しながら、さまざまな部局の教職員によるオンライン授業／ハイブリッド型授業の工夫や学生支援について学び合う機会を作っています。講習会は平均して週1回程度Zoomにより実施され、すべての講習会動画を資料とともに「Teaching Online @京大」に掲載し、学内関係者で共有しています。

学内講習会の7つのシリーズ(令和3年6月時点)

- ハイブリッド型／オンライン授業に関する講習会・相談会
- 私のハイブリッド型／オンライン授業@京大
- ミニディスカッションフォーラム「今、京大の学生に必要な支援・配慮を考える」
- こんなこともできる！オンライン授業
- TA 講習会「TAとしてハイブリッド型／オンライン授業を支援する」
- ポストコロナの大学授業
- Teaching Online Workshop for Faculty & TA (英語)

コロナウイルス対策に向けた研究

本学の最先端の研究資源を活用して、さまざまな角度からコロナウイルス対策に向けた研究を行っています。

附属病院での取り組み

令和2年3月にコロナユニットを開設し、新型コロナウイルス疑似症患者および陽性患者の診療を行っています。

詳細は46ページをご参照ください。

電子書籍の整備充実



CLICK!

遠隔教育・在宅学習の増加等を受けて、基礎的教養のための書籍や、教科書等の電子書籍の大幅増強を行いました。

緊急学生支援プラン

令和2年度には、家計急変やアルバイト収入の大幅な減少により、修学に支障をきたすおそれのあった学生に対し、「緊急学生支援プラン」を策定し、以下の取り組みを行いました。所要額は令和2年度だけで10億円規模となりましたが、政府補正予算や学内予算等の活用に加え、支援者の方々からの「緊急学生支援プラン」へのご寄附のおかげで、実施することができました。

■ 緊急給付型奨学金

学資負担者等の収入減により修学に大きな支障をきたすおそれのあった学生に対し、一人あたり12万円を支給しました。

■ 授業料免除の拡大

学資負担者等の収入減により本学の授業料免除基準に該当することとなった学生に対し、半額免除該当者を全額免除とするなど免除の拡大を実施しました。

■ オンライン授業実施のためのTA（ティーチング・アシスタント）・OA（オフィス・アシスタント）の雇用

■ オンライン授業実施のための環境整備支援

オンライン授業を自宅等で受講するため、十分な通信環境にない学生に対し、希望する学生にモバイルルータ（Wi-Fiルータ）を無償で貸与しました。

■ 授業料納付期限の延期、免除申請の追加受付

令和2年度前期授業料の納付期限を当初の5月末から8月20日に延期するとともに、当初4月上旬で締め切りとしていた授業料免除の申請を、新型コロナウイルス感染症の影響により授業料の納付が困難になった者を対象に5月25日まで追加受付しました。

サテライトオフィスの開設

本学の全教職員がテレワークに使用可能なサテライトオフィスを、各キャンパスに開設しました。

カウンセリングルームでの相談受付



CLICK!

新型コロナウイルスは、感染症対策がソーシャル・ディスタンスを必要とするゆえに、人の心理面に大きな影響を与えました。個人差はありますが、「自粛疲れ」や「コロナうつ」などと呼ばれる気分の低下状態を経験した学生は多いと思われます。

学生総合支援センターのカウンセリングルームでは、緊急事態宣言下、キャンパスに来ることのできない学生のために、いち早く相談業務をほぼすべてオンライン（Zoom、電話等）に切り替え、ひとり下宿で自粛する学生や、実家に帰省したままの学生とつながり、相談支援を継続しました。これは今も、大学の対策レベルの変化に連動して、対面とオンラインを行き来しつつ継続中です。

また、学内講習会などでは、相談から見えてくるコロナ禍での不安や悩みを学生に代わって教職員にお伝えし、個別支援から学生全体の支援へつなげるよう努めています。